



2022年6月1日発行
1916年6月1日創刊
発行/小川 健一郎
編集/大阪YMCA広報室
〒550-0001
大阪市西区土佐堀 1-5-6
Tel 06-6441-0894
Fax 06-6445-0297
URL: <http://www.osakaymca.or.jp>

YMCA 大阪青年



2022年に大阪YMCAは創立140周年を迎えました



1920(大正9年)夏キャンプ申込書

未来を創ってきた140年

140年の歴史を紐解くと、先達が多くのこと挑戦し成し遂げた輝かしい実績と、社会の変化や自らの力不足でできなかったことが折り重なっている。E・H・カーは「歴史とは現在と過去の絶え間ない対話である」という。ある評価がされている取り組みも、別の見方で振り返る時、新たな価値が見出される。

アメリカ・ミネソタ大学の図書館に世界のYMCAに関する歴史資料のアーカイブがあり、大阪YMCAの資料も保管されている。戦前の会員規則、北米YMCAに送った会館建築に際しての寄付依頼状とそれに対する北米YMCAからの質問の手紙、大阪市青年会の旗を中心に集まる学ラン青年の写真、アベノ橋YMCAのスキーキャンプの写真、日米YMCAの委員会資料まで幅広い。

良き社会の実現を目指すYMCAは、産業革命で資本の威力、技術革新のパワーが炸裂しているときに、若者の長時間労働、それに伴う不健康で人間性の荒廃が広がる生活を、12人の若者が見かねて誕生した集まりであ

る。その後、世界経済は発展したが、自由放任主義や経済成長偏重の傾向、行き過ぎた自分中心の考え方が世界中に広がり、人々の幸せの総和が向上しているとは言えない。

私たちが世界に目を向けると美しく感動的な景色がある一方、目を覆いたくなる厳しい現実もある。それは、幾たびも繰り返されてきた戦争であり、社会が生み出したあらゆる格差である。私たちの便利な生活が途上国の低賃金で働く人々の上に成立している事実。健康な人、教育を受ける環境があった人には複数の人生の選択肢がある一方、そうではない人にはただ受け入れるのみの困難な現実がある。私たちが地理的に距離の近い人のことだけを隣人と考えている限り見えない現実が世界にはある。聖書は、あなたの隣人は誰ですかと問うている。

私たち大阪YMCAは、社会の中でまだ広く認知されていない事柄や課題に先駆的に取り組んできた。その取り組みは、ある事柄を頭で理解するという方法ではなく、体験や対

話、出会いの中で心と身体全体で理解するという方法を採用してきている。この体験の積み重ねこそが人と人とのつながりを強くし、大阪YMCAが140年続いている秘訣である。

技術革新の進展と深刻な社会課題を前にし、未来を予測するのは難しい。しかし、未来はまだ決まっていない。こうありたいと願う姿に向かって行動を起こすのが私たちの流儀である。掲げたビジョンに向かって大阪YMCAの活動を前進させ、新たな価値を見出し、未来を創造していきたい。



大阪YMCA
総主事

おがわ けんいちろう
小川 健一郎

■大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

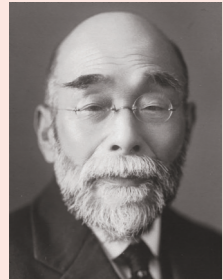
- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人のびとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み、平和で公正な世界をめざします。

創立140周年特集 大阪YMCA 140年のあゆみ

大阪YMCAは1882年6月4日に創立し、今年で創立140周年を迎えます。

1882年(明治15年)に大阪の地で創立されてからの140年、大阪YMCAはボランティアやメンバー、職員の関わりにより使命実現を目指して歩んでまいりました。大阪YMCA140年の歴史を振り返ります。



初代会長 宮川経輝



東洋最初の土佐堀青年会館の全景(1886年11月3日建堂)



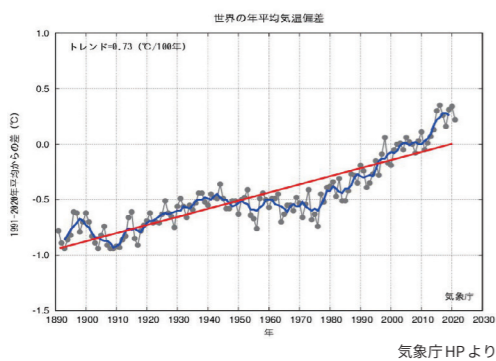
現在も土佐堀会館1階に残る定礎石(コーナーストーン)
「To the glory of God, August 1886 — 顕栄明治19年8月定礎」と刻んである。



J.R. モット博士講演会 演台「苦難の賜物」(1935年3月28日)

140周年記念コラム① 設立当時の時代背景

1882年(明治15年)に大阪YMCAが創立し西洋文明の紹介者として、また市民運動の拠点として人びとに大きな影響を与えていました。同年には東京・銀座に灯された日本初の電灯(アーク灯)が登場し、電灯は東京を中心に急速に普及します。さらにエレベーターや電車など、電気は動力用としても利用され、次々と発電所が建設されていきます。つまり、化石燃料の使用によって便利な生活を次々と手に入れ始めた時期です。



- 1882 ● 大阪基督教徒青年会(現大阪YMCA)創立 初代会長宮川経輝(26歳)
- 1885 ● 河内大水害療養事業「施療施設」開設(災害ボランティアの開始)
- 1886 ● 初代土佐堀青年会館竣工 日本で初のYMCA会館(演説会の開催、体育事業の開始)
- 1889 ● 機関紙「基督教青年」第1号発刊(1916年「大阪青年」発刊)
- 1893 ● 「大阪青年会夜学校」開校(大阪YMCA英語学校の前身)
- 1896 ● J.R. モット博士(1946年ノーベル平和賞受賞)講演会
- 1901 ● ジョージ・グリーソン主事(北米YMCA同盟)大阪YMCAに派遣(国際的YMCAネットワークの協働)
- 1902 ● 初めて有給職員を採用(NPOマネジメントの先駆)
- 1910 ● 「大阪高等予備校」開設(1911年「理科学院」設立、進学教育事業の開始)
- 1913 ● フランクリン・H・ブラウ主事よりバレーボール、バスケットボールが紹介(ユーススポーツの開始)
- 1920 ● 日本で最初の教育的な少年キャンプを六甲山の麓・南郷山で実施
- 1922 ● 「市民労働学院」を青年会館で開設(1920年簡易法律相談所を設置)
- 1927 ● 「大阪基督教徒連盟」大阪YMCAで結成(エキュメニカルの働き、後に大阪クリスチャンセンター)
- 1928 ● 日本初の国際ワイズメンズクラブ大阪に誕生
- 1944 ● 土佐堀青年会館「大阪帝国大学臨時教員養成所」に貸館(英語学校、予備校は全面休校)
- 1949 ● 奈良伝総主事 9カ月の米国YMCA視察から帰国(大阪YMCA第1次復興計画につながる)
- 1950 ● アベノ橋ランチ(現大阪南YMCA)開設 日本で初のランチ(以降、各地にランチ開設)
- 1951 ● 六甲キャンプ開設(現六甲山YMCA)
- 1952 ● 大阪YMCA賛助会の発足(企業フィナンソロビー活動の先駆)
● サンフランシスコYMCA高校生来阪(青少年国際交流の先駆)
- 1964 ● 「体育が好きな教室」を開始(青少年ウエルネス活動の本格的な開始)
- 1968 ● 「阿南国際海洋キャンプ場」開設(現阿南国際海洋センター)
● 少年サッカー・スクールを開始(堺ランチ)
- 1969 ● 「外国人のための日本語コース」を開始(1984年全日制コース開始)
- 1970 ● 国際年長少年キャンプを阿南で開催(対象:15~18歳、国際キャンプの進展)
- 1972 ● 第1回「日米中学生国際キャンプ」開催(ホノルルYMCA)
- 1976 ● YMCA松尾台幼稚園開園(健康教育を柱とした幼児教育の開始)
- 1985 ● 大学入学試験検定講習会を開催(通信制高校の先駆)
- 1988 ● 国際専門学校に高等課程(IHS)設置(オルタナティブスクールの先駆)
- 1990 ● 不登校児プログラム「遊びの広場」発足(学校に馴染めない子どもへのプログラムの先駆)
- 1996 ● サポートクラスを開始(発達支援事業の開始)
- 1997 ● 高齢者支援施設YMCAサンホームを開設(1996年社会福祉法人認可)
- 2001 ● 大阪YMCAインターナショナルスクール開校
- 2002 ● YMCA学院高等学校(通信制)開校
- 2005 ● 国際専門学校高等課程表現・コミュニケーション学科設置
- 2006 ● YMCAとさぼり保育園開園、YMCAかわにし保育園開園
● 日本YMCA教育交流センターをソウルYMCA会館内に開設(通称ソウルセンター)
- 2009 ● 教育交流センター台北オフィス開設
- 2013 ● 大阪YMCA英語幼稚園(天王寺)開園
● 東アジアYMCAアーバンネットワーク(EAYUN)発会(現YAPUN)
- 2017 ● YMCA新ブランドコンセプト、ロゴ、スローガン、ステートメントを発表
- 2019 ● 日本初の公設民営型中高一貫校の大阪市立水都国際中学校・高等学校開校(現大阪府立、学校法人大阪YMCA運営)

ユースの声 ~自分探しの旅~

すぎむら 杉村 マキ(こあらリーダー)

自分を見つめず、ただ日々を過ごしていた私を変えてくれたのは、ユースボランティアリーダーとしての活動です。「こんなことがしたい!」と子どもたちが活発に動き出す姿を見て、「それをさらに引き出したい!!」という想いが生まれました。この想いが私に「リーダーとして何が出来るか」を考えさせ、行動させています。自分ができることを考えて実践するなかで、うまくいったことに対する達成感と同時に、うまくいかないことに対する悔しさや悲しさもありました。それらは全て「自分」とはどんな人なのかを知るきっかけとなり、今後やっていきたいことが整理される機会となっています。まだまだ自分探しの旅の途中です。自分を変えていきたい気持ちもあり、一方では以前よりも自分のこと



を知って、好きになることができている。私がそう感じているように、私に関わる子どもたちやリーダーにも同じように感じてもらえる場所を作っていきたいと思います。



新しいYMCAの動き

土佐堀アフタースクールが始まりました!

土佐堀アフタースクール かたやま さとこ 片山 聡子

2022年4月1日より土佐堀YMCAアフタースクールが始まりました。このアフタースクールは、ウエルネス事業が大切にしている小集団活動を通して一人ひとりのこころと知性とからだをバランス良く育む教育理念を柱としています。対象は近隣の西船場小学校と明治小学校の1~3年生で、アフタースクールのスタッフが学校からYMCAまで引率します。1年生は新しい小学校の生活に疲れて歩くペースが遅くなったり、道端のお花を摘んだり、話が止まらなかったり、子どもたちの気持ちや体調、天気や季節の変化などの様子を見ながらYMCAまでの道を歩きます。アフタースクールに通う経験も含め、仲間や指導者と過ごす生活そのものが学びです。お友だちと一緒に楽しく活動できる日、そうでない日、宿題などの学習課題にスムーズに向かえる日、そうでない日。どの日も、時間も、瞬間も、子どもにとってかけがえのない時です。様々な関わりの中で、「共に生きる力」が、生まれていることを願っています。アフタースクールをお探しの方はぜひお問い合わせください。

土佐堀アフタースクール
TEL : 06-6441-0895



~和泉市立青少年の家の運営が始まりました~

和泉市立青少年の家 なかはら しげたか 仲原 成岳

大阪YMCAが運営する和泉市立青少年の家が4月1日からスタートしました。横尾山の中腹にあり、青少年の家と横尾山グリーンランドが併設された緑あふれる施設です。グリーンランド(八ヶ丸山)や横尾山のコースでのハイキングや自然観察、全天候型の野外炊飯場でのBBQや野外料理が人気です。お泊り保育や子ども会、ボーイスカウトやガールスカウトでもテントサイトを多くご利用いただいています。夏はすぐ横を流れる横尾川で川遊びも楽しめます。恵まれた自然やロケーションを活かして、SDGsやSTEAM、防災・減災、YELLプログラム等多彩な活動を提供していく準備を進めています。学校、幼稚園、団体だけではなく、家族等少人数のグループも、ご利用が可能です。皆さまのご利用をお待ちしています!



和泉市立青少年の家
TEL : 0725-94-0422

HPはこちらから



私のSDGs

～水都国際中学校・高等学校～

水都国際中学校・高等学校 SAチーム B3

私たちはSA※でSDGsの15「陸の豊かさを守ろう」に焦点をあて、村上木材株式会社に提供いただいた廃材を活用し、募金箱の製作を進めています。廃材でできた募金箱を駅や空港に設置し問題をより多くの人に広めること、同時に森林伐採対策に取り組む団体への寄金を募ることが目標です。一人で考えるのではなくたくさんの人と関わりながらアクションを起こすことで、より良い世界に変えていけると感じています。

※ SA: Suito Action Project for SDGs 生徒自らがSDGs達成に貢献するため、社会課題を解決していくプロジェクト型学習。



会員・賛助会員としてのご協力に 感謝申し上げます。

2022年4月度報告(敬称略)

【新規会員】

植野 正弘
小山 鈴音
高田 智大
牟 大盛
山田 麗
山田 龍之介

櫻本 高廣
神谷 尚孝
川岸 清
小森 敬久
齋藤 中哉
佐川 隆二
重信 直人
小路 修

橋本 照夫
林 小雪
福山 正和
藤井 みどり
藤田 貴大
藤好 基子
本多 勝弘
松野 五郎
南川 恵美子
南出 和余
村上 徳光
文字 文男
柳谷 利起
和田 早苗

【継続会員】

朝倉 羽玖
足立 智哉
足達 泰司
飯沼 真
池田 和弘
石川 悟
石原 福造
市田 恒夫
井之上 芳雄
今井 利子
岩永 和子
尾形 丈二
鍛冶田 雅弘

杉浦 真喜子
鈴木 えみ
滝口 敏行
武井 和子
谷村 睦
丹吾 礼
登森 加帆
中久木 康弘
長田 英子
中本 和子
西村 博子
野村 忠彦
則武 秀尚
橋本 健

【継続賛助会員】

株式会社朝日新聞社 大阪本社
株式会社シェル石油大阪発売所
株式会社西島製作所
双葉電気通信株式会社

インフォメーション

日本語オンラインステップコース

日 時：2022年7月25日(月)～8月27日(土)

開催方法：オンライン



コロナ禍で外出自粛が続く中、日本に在住する外国人で、生活に必要な日本語を学びたい人向けに「日本語オンラインステップコース」を2021年10月に開講しました。仕事や生活の隙間時間を利用して、自分のペースに合わせて日本語が勉強できるのが特徴です。ほとんどの方が日本にお住まいの外国人生活者ですが、大阪YMCAへの留学を考えて自国から受講している学生もいます。本コースは、企業の外国人社員向けのオンライン日本語研修としても受講が可能です。開講レベルや時間などの詳細はHPを、また説明会や体験授業について公式LINEでもお問い合わせを受け付けています。



大阪YMCA日本語学校 オンラインステップコース

TEL：06-7669-1133

LINE ID：@692xvxyk

<https://www.osakaymca.ac.jp/nihongo/dairy-life/online/index.html>

あわぎ保育園子育て支援「こひつじひろば」

あわぎ保育園では子どもたちを保護者や保育士だけでなく、地域の方々と共に見守る関係性づくりが大切だと考え、「こひつじひろば」をあわぎ保育園や近隣の公園で毎月開催しています。在園児、卒園児、地域の方々が出会い、交流する場となっています。年間に何度かは子育て支援ぶどうの木と一緒に公園にて子育て支援を行う機会も持っています。参加は0歳児から対象で、平日のお昼と月に一度土曜日に活動しています。



Instagramで活動の様子をご覧ください。

<https://www.instagram.com/ymcaawazahoikuen/?hl=ja>

第338回 早天祈祷会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAの様々な場で活動されている方々にお話をいただき、人生の歩みを分かちあう恵みの時としています。

日時：2022年6月17日(金) 7:30～8:15

証し：林 健児郎さん(ウエルネス事業本部事業長)

場所：大阪YMCA会館 10階チャペル

※朝食会はありません。

※中止の場合は大阪YMCAホームページ「NEWS 新着情報」でお知らせいたします。



大阪YMCA 統括本部 総務

TEL：06-6441-0894

E-mail：info@osakaymca.org

大阪YMCAのホームページで
その他の情報をご覧ください
ます。

